

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472200338		
法人名	医療法人平成会		
事業所名	グループホームサンライズ 1階ユニット		
所在地	大分県速見郡日出町1845-1		
自己評価作成日	平成27年8月10日	評価結果市町村受理日	平成27年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成27年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームサンライズの理念である「この町で、その人らしく、ゆったりと」利用者様に満足してもらえるように日々努力をしている。利用者様がそれぞれ自分らしく、自分ペースで生活ができるグループホームを目指している。業務推進運営会議の開催により地域の方々に認知症についての理解がさらに得られ、地域と協力体制も整っている。また、病院が併設しており利用者様の健康管理や医療の連携体制、緊急時の対応も24時間可能となっている。利用者様とご家族様に今後も満足していただけるように地域に開かれたグループホーム作りに努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・母体が医療法人で、医療面で安心した健康管理が行われている。
- ・「この町でその人らしくゆったりと」の理念を大切にしている。
- ・利用者の気持ちに沿ったケア、寄り添うケアを心掛けている。
- ・手作りの食事を各フロアで違ったメニューで作っている。
- ・言葉かけは利用者の気持ちになって行い、利用者が穏やかに過ごせている。
- ・人事考課制度で人材の育成に力を入れている。スキルアップの研修も進んでいる。
- ・職員の在籍年数は長く、人材の育成により資格取得者も多い為、利用者も良いケアが受けられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念を明確にしており定期的な勉強会及び朝礼時に再度確認をし、地域密着型サービスの役割を認識し、考えながらケアにあたっている。	グループホームの理念を玄関ホール等、目に触れる場所に掲げ、常に「この町でその人らしくゆったりと」をスタッフが毎日朝礼や引継ぎで地域密着型サービスの役割を確認し、意識しながらケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の保育園児に遊びに来てもらったり地域のボランティアの方々と踊りや歌を共に楽しんだり、お茶を一緒に飲んだりと色々な人との関わりが持てるように取り組んでいる。	民生委員や区長、地域内の保育園児の訪問やふれあいがあり季節ごとの行事に参加を頂きながら交流が続いている。大正琴、腹話術のボランティアも継続されており、スタッフも地域行事に参加し交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症への理解について、業務推進運営会議で家族、地域の方に説明を行っている。また、地域からの要望があれば出向いてお話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	業務推進運営会議にて評価の説明と結果報告を行い、入居者様、ご家族様、地域の方、役場の職員に助言、意見をもらいサービスに繋げている。	運営推進会議に地域や行政、入居家族の参加があり、連携が取れている。議題に沿って記録も詳細に残され、評価への取り組み状況の報告がされサービス向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	業務推進運営会議に役場の介護保険担当職員に参加してもらっている。認定調査も役場に依頼しており、連絡を密に取っている。グループホームの職員も役場に足を運び意見交換を行いサービスに繋げている。	運営推進会議に役場の介護保険担当職員の参加があり、実情やサービスのあり方等、助言を頂きながら情報の共有が出来ている。グループホームの職員も行政に足を運び、相談や助言を受けるなど連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアを努めている。機会があるごとに職員に説明を行っている。また学ぶ機会を職員間で持ち、身体拘束についての共有認識を図っている。	身体拘束のないケアの勉強会があり、折に触れ学ぶ機会を持っている。研修も法人主体で外部研修、内部研修で積極的に学び共有認識を持ちケアに繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的には高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会があるごとに職員に説明を行っている。また、学ぶ機会を職員間で持ち、必要な入居者様には活用してもらうように説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にゆっくり時間をとり入居者様及び、ご家族様に納得してもらえるように説明をしている。また重度化、看取りについての対応、医療連携について重要事項説明書やパンフレットを用いて説明を行い了承を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様より意見、不満、苦情があった場合はすぐに苦情処理委員会で検討している。緊急の場合は臨時で会議を開催するようにしている。早急に対処し業務推進運営会議で改善点も説明するようにしている。	運営に関する意見を運営推進会議や面会時に家族より出してもらい実践に繋げている。家族で遠方に住まれている方にはホーム便りを通じ運営の状況を知らせ、意見を聞いているが、苦情、問題点は出ていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体職員ミーティングと各ユニットミーティングを開催し職員の意見や提案を聞くようにしている。また、朝礼でも毎日の業務の見直しや意見交換を行っている。	全体ミーティングは必要に応じて行い、月1回の各ユニットミーティングは利用者のケアに対しての意見を出してもらい共有している。各室の担当者を決め、評価しながら意見を取り入れている。状況に応じて見直すこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ職員の努力目標を立てやりがいのある職場作りに努めている。また、少しであるが賞与に反映するように行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を作成しており、各自が参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加し、関係者や他の施設職員と情報交換を行っている。また、研修等で知り合ったグループホーム関係者と情報交換や施設見学を行ったりしてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にできるだけ入居者の情報収集し面会するようにしている。入所後に話を聞いたり、行動を把握し、苦しみ、不安、喜び等を知れることを努め、できるだけ本人が過しやすい環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか事前に話し合っている。また、話を聞くことで安心していただき、次の相談につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、実行を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭と同じ環境で過ごしてもらえるような介護に努める中、入居者から学ぶ事も多くあり一方的な接し方ではなく、家族同様に過ごせるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の様子や職員の思いをきめ細かく伝え家族に安心していただけるようにしている。また介護の内容や入居者様の状況もできるだけ多く伝える機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人、友人等に来てもらったりして、継続的に交流ができるように働きかけている。	継続的に交流がある。親戚や近所の住民がカラオケを利用しに来る事もあり馴染みの関係が途切れない交流が来ている。事業所にも気軽に来れるよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の個性やプライバシーを尊重しながらお互いのコミュニケーションが取れるように配慮し、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりをするなど職員が調整役となり支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住まいが変わっても今までの暮らしの継続性が損なわれないように、生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、きめ細かい連携を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの課題を明らかにするために資料に沿ってその人らしく生活できるように心がけている。日々のかかわりの中で声掛け、把握に努めている。意思疎通の困難な入居者様にはご家族様や関係者から情報を得ている。	個々の生活歴をアセスメント表に記載、プラン表にして繋げている。不穏の方の対応も状態を共有し穏やかに生活して頂ける様な支援を大切にし、介護計画に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にできるだけ入居者様の情報収集し、生活歴、生活環境を把握し、実際入所後に話を聞いたり行動を把握し、できるだけ本人がすこしやすい環境づくりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の日々のくらしのリズムを理解し個人の状態や生活歴、趣味等を把握した上で入居者様に接している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族には日頃のかかわりの中でご本人の思いやニーズを職員全員で話合いケアプランに反映している。モニタリングも定期的におこなっている。	利用者の思いに寄り添い、生活歴を把握し、チームで話し合いのもとプラン表を作成。スタッフ間でモニタリングを見直し実践に繋げて自立を損なわないケアに取り組んでいる。変化のある事柄は赤字で詳細に記録されケアに活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者それぞれにファイルがあり日々の状況を記録して情報の共有を行っている。また毎日の申し送りでも日々の情報の共有も行っている。その後内様に沿った計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意見を反映させその人らしい時間をすごしてもらえるように柔軟な介護を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できるだけ入居者様の希望や必要性に応じて地域の方々に支援、協力を得ている。業務推進運営会議を開催してから協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の前に協力病院があるがご本人やご家族様の希望するかかりつけ医に受診できるようにしている。	事業所横に母体の病院があり、医師や看護師とも連携が取れている。かかりつけ医の変更は家族・本人の意向に沿っている。看護師も常駐しており24時間体制で安心して過ごす事が出来ている。歯科・皮膚科などの受診も支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームに看護師が常勤で配置しており協力病院であるサンライズ酒井病院の看護師と連携を取り、コミュニケーションができるようになってきている。看護職員がいない場合は、介護職員の記録のもとに確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した医療機関の主治医や家族と連絡を密に取り回復状況の確認と情報交換を行い、速やかな退院支援に結びつけている。その場合に病院関係者及びご家族様と関係作りを強化している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を取り決め、入居者様家族様に確認を行うようにしている。主治医とも連携を取るようになり、グループホームが対応し得る最大のケアについて説明を行っている。	入所契約の重要事項の説明時に終末ケアについて説明し、家族の要望を聞いている。書面の同意書もあり、悪化時には家族の要望により、病院に転院もあり。看取りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時の対応についての全体ミーティングで話しを行っており、救急車が到着するまでを想定しながら話し合いを繰り返している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害避難訓練を年2回(そのうち1回は消防署立会い)と消防設備説明の部分訓練を年2回実施し、周知している。また、業務推進運営会議においても近隣の住民に協力を得られるように説明をしている。	年2回、春と秋に災害非難訓練を実施。1回は消防署や地域、グループ全体で協力体制が得られ3階が地域の避難場所となっている。備蓄も水・缶詰・パン・紙おむつ等が用意されている。10項目の防災自主点検表があり詳細にチェックされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の一人ひとりの性格や力量を把握し、その人に適した役割や出番等作っている。身体状況を考慮しながら予定を立てている。居室はすべて個室で入居者様それぞれにプライバシーが確保できるように対応している。	一人ひとりの生活歴や習慣などを考慮し、プライバシーの確保に努めている。トイレの声掛けも「室に帰りませんか？」とさりげない声掛けで対応し各自、自室で排泄する方が多い。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の一人ひとりの性格や力量を把握し、その人に適した役割や出番等作っている。入居者様の意見を尊重し、身体状況を考慮しながら予定を立てている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れを持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重してできるだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や寒暖に応じて、本人の意思とこちら側からの声かけにて服装に配慮している。外出時やイベント事には四季の彩りなどを本人の意思により好きな洋服を用意してもらう。理美容院には外出してお店に行くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に盛り付けや配膳をしていただき食事に関心が向くような働きかけをしている。入居者それぞれに食事の準備、片付けに役割を与え興味がわくようにしている。	開設して10年を過ぎているが、マンリ化しない様に母の日や父の日等の行事に合わせ、手作りの料理やおやつ作りをユニット毎に行っている。近所の方より野菜等の差し入れもあり潜在能力を引き出す働きかけをしている。職員が声掛けすると「おいしい」と笑顔が見られた。献立は法人の管理栄養士の意見を取り入れ、手作りのこだわり努力している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握し協力病院の栄養士のアドバイスを受けている。ご本人の好きな物、食べやすい形にして出すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	居室にそれぞれ洗面台があり、本人の能力に合った声掛けを行い、自立支援を行っているが介助が必要な入居者様には職員が誘導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンを把握してさりげなく声かけ誘導を行っている。また、医師の指示がある入居者様は排便、排尿のチェックリストを作成してトイレで排泄できるように支援している。	排泄は出来るだけ自然にし、オムツを避け布パンツ使用者も5人いる。一人ひとりの排泄の習慣や仕草を把握しトイレ誘導をしている。チェック表を作成し排便コントロールも食事等に気を配りながら出来ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に飲食物で工夫を凝らして、排便パターンを把握している。運動、水分補給の徹底を行い便秘対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望する日、時間に合わせて入浴していただいている。能力に合わせた入浴援助を行っている。一人で入浴可能な入居者様は見守りのみで行っている。安全確認の声がけもしている。	利用者の希望を大切に、意向に合わせて平均週3~4回の入浴。ゆっくり入りたい人には見守りや声掛けでスムーズに入れるようにしている。個浴で希望に沿っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えるように努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮してゆっくり休息が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの使用している薬の内容が把握できるよう服薬ファイルや処方箋は整理している。服薬時はきちんと服薬できているか確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や興味を理解し入居者様一人ひとりの感情表現できるようにしている。。一人ひとりの日頃の様子を把握し訴えや要望がありそうな素振りがみえた時はこちらから声かけ、言葉や気持ちを引き出す努力を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の行きたいところを話の中で聞くようにしており、定期的な外出は希望に沿った支援ができるようにしている。また職員から声掛けして積極的に外出できるようにしている。	季節ごとにブドウ狩りなどの外出をしている。毎朝外回りの様子を散歩を兼ねて確認するなど日光浴・外気を感じられる支援をしている。身だしなみにも気を配っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人家族と相談して自己管理が出来る利用者様は自分で金銭管理してもらい買い物や美容院等の支払が出来るよう支援をしている。出来ない入居者はグループホームで預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状と暑中見舞いを欠かさず行い、入居者様の希望に応じて日常的に電話をする支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分に畳、ソファを設け、すべての場所で家庭的な雰囲気の物を使用し、居心地のよい環境を提供できるように努力している。入居者様と一緒に考え自分が住んでいる家だという意識を高めてもらうようにしている。	利用者の思い出の写真や俳句作品等が共有空間に飾られ、一人ひとりが自分を大切に思い、守られていると感じられ、家族として溶け込む工夫がされている。室温・湿度も分かる様に配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、畳と廊下等に椅子を設けており思い思いの場所で過ごせるよう工夫をし落ち着いてくつろげるスペースづくりに取り組んでいる。廊下から中庭を眺めながら、入居者間でお話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ家で使われていた馴染みの品を持ち込んでもらうようにし、個人で準備した品等を使用してもらっている。持ち込みが少ない方は職員と本人が相談しながら温かい雰囲気を出すように努力している。	自宅で使い慣れた思い出の品を持参し、その人らしい生活が見えてくる。以前の暮らしぶり変わらない様に工夫され、写真や飾り物が置かれた部屋となっている。定期的にスタッフと一緒に整理整頓している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様に一人ひとりの能力に応じて役割をあたえ自宅の様なホームづくりをしている。		